

平成28年度 事業報告

自 平成28年4月 1日

至 平成29年3月31日

第1 事業に関する事項

1 豆類をめぐる諸情勢

(1) 主産地北海道における豆類の生産

平成28年産雑豆類の作付指標面積は、小豆 19,000ha、いんげん 8,630ha（うち金時 6,000ha、手亡 1,800ha）に設定されたが、平成28年産の作付面積は、農林水産省の発表によると小豆は前年に比べ5,700ha減の16,200haであった。また、いんげんは前年に比べ1,610ha減の7,940haで、うち金時は前年に比べ90ha減の6,170ha、手亡は1,520ha減の1,200haであった。

平成28年産の生育については、5月後半は高気圧に覆われ、小豆、金時とも播種作業は順調であった。6～7月は全般に低温・寡照で推移し、連続した降雨のため生育は停滞し、開花期は、小豆で平年より5日遅れ、金時で4日遅れとなった。その後、8～9月は気温は平年並みになったものの、連続した台風による降雨もあり生育の遅れは回復しなかった。小豆では、成熟期は3日遅れ、草丈が平年と比べて短く、葉数は少なく、着莢数はやや少なくなり、十勝地方では8月末の台風の影響による被害が大きかった。また金時でも、成熟期は3日遅れ、草丈は平年よりやや短く、葉数は少なく、着莢数は少なかったが、特に、排水不良畑では生育停滞が強かった。収穫は小豆では3日遅れであったが、金時については、9月中旬の降雨で作業が停滞し、収穫期、収穫終ともに6日遅れとなるとともに、品質は、地域によって著しく悪く、収穫期の降雨による色流れ、発芽粒が発生した。

北海道における豆類の生産状況

(単位：ha, kg/10a, t)

区分	作付面積			収量		収穫量			作付指標面積(注)	
	27年	28年	増減	27年	28年	27年	28年	増減	28年	29年
小豆	21,900	16,200	△5,700	272	167	59,500	27,100	△32,400	19,000	20,000
いんげん	9,550	7,940	△1,610	260	69	24,800	5,480	△19,300	8,630	9,100
うち金時	6,260	6,170	△90	241	51	15,100	3,150	△11,950	6,000	6,450
うち手亡	2,720	1,200	△1,520	309	133	8,400	1,600	△6,800	1,800	1,800
雑豆合計	31,450	24,140	△7,310	—	—	84,300	32,580	△51,700	28,170	29,550
大豆	33,900	40,200	6,300	253	205	85,900	82,400	△3,500	35,000	38,870
合計	65,350	64,340	△1,010	—	—	170,200	114,980	△55,220	63,170	68,420

資料：農林水産省統計部「平成28年産大豆、小豆、いんげん及びびらっかせい（乾燥子実）の収穫量」等による。

(注) 作付指標面積の雑豆合計にはえんどうを含む。

平成 28 年産の生産量は、天候不順と台風等による被害により、小豆では、10a 当たり収量が大幅に減少したため、前年比 46%の 27,100t となった。また、いんげんについても、10a 当たり収量が大幅に減少したため、前年比 22%の 5,480t（うち金時は 79%減の 3,150t、手亡は 81%減の 1,600t）と、いずれも前年産に比べ大幅な減収になった。

なお、平成 29 年産雑豆類の作付指標面積は、各作目を取り巻く需給情勢を踏まえ、小豆 20,000ha、いんげん 9,100ha（うち金時 6,450ha）に設定された。

（2）豆類の消費

輸入物を含めた雑豆（小豆、いんげん、えんどう、そらまめの乾燥豆）の消費実績は、この数年、15 万トン台で推移してきたが、平成 28 豆年度（平成 27 年 10 月～平成 28 年 9 月）については 131.3 千トンと前豆年度を 19.4 千トン（12.8%減）下回った。

平成 28 豆年度の雑豆消費量 131.3 千トンの内訳は、小豆 72.1 千トン（9.3%減）、いんげん 40.6 千トン（16.1%減）、えんどう 14.5 千トン（9.4%減）、そらまめ 4.1 千トン（39.7%減）となっている。また、平成 28 豆年度の輸入量は、小豆（11.4%減）が減少した一方で、いんげん（12.1%増）及びえんどう（13.5%増）が増加した結果、前豆年度を 1.6 千トン（2.4%増）上回る 67.6 千トンとなった。

輸入加糖餡は、平成 19 年の 93.2 千トンから平成 21 年には 69.6 千トンへと大幅に減少し、その後は 7 万トン台で推移してきたが、平成 27 年に 6 万トン台に減少し、平成 28 年は 62.4 千トンと前年比 4.5%減であった。

（3）豆類の価格

北海道産の小豆の価格については、平成 27 年 2 月から平成 27 年 11 月まで 22,000 円/60kg、その後、28 年 6 月まで 20,500 円/60kg で推移してきた。平成 28 年産については、作付面積の減少に加え、天候不順と台風等の被害により収穫量が大幅に減少したため、平成 28 年 9 月以降価格が上昇し、平成 29 年 3 月では 24,932 円/60kg となっている。

また、大正金時の価格は、27 年産の豊作により需給が安定し平成 28 年 9 月まで 31,000 円/60kg で推移してきたが、平成 28 年産の不作の影響により平成 28 年 9 月以降価格が上昇し、平成 29 年 3 月では 43,000 円となっている。大手亡の価格は、平成 26 年産以降の豊作により繰越在庫が増加したことから、平成 28 年 1 月以降 20,500 円/60kg で推移してきたが、平成 28 年産の不作の影響により平成 29 年 1 月以降価格が上昇し、平成 29 年 3 月で 21,500 円/60kg となっている。

輸入小豆の価格については、円安の定着や中国現地での価格高によって、平成 25 年の 12,000 円/60kg 台よりかなり上がり、平成 26 年以降は、60kg 当たり 14 千円弱から 16 千円強で上下しており、最近では 14 千円台の価格となっている。なお、中国産の輸入 CIF 価格は、平成 28 年では 9,861 円/60kg（前年比 9%安）となっている。

北海道豆類の月平均価格（東京仲間相場）

（単位：円／60kg）

	H28 8月	9月	10月	11月	12月	H29 1月	2月	3月
小豆	21,450	23,625	24,405	24,500	24,500	24,622	24,700	24,932
（前年同月）	22,000	22,000	22,000	22,000	21,500	20,500	20,500	20,500
大正金時	31,000	31,000	38,286	40,900	41,000	42,222	43,000	43,000
（前年同月）	32,000	32,000	32,000	32,000	31,667	31,000	31,000	31,000
大手亡	20,500	20,500	20,500	20,500	20,500	21,111	21,500	21,500
（前年同月）	22,500	22,500	22,500	22,500	21,833	20,500	20,500	20,500
輸入小豆（天津）	16,180	16,110	14,952	14,500	14,689	14,733	14,695	14,800
（前年同月）	15,356	15,479	15,262	14,737	14,500	14,322	14,300	14,609
ペーライマ（米国）	10,405	9,865	9,210	9,220	9,906	10,083	10,000	10,000
（前年同月）	11,322	11,605	12,024	12,079	11,961	11,633	11,600	11,391

（注）東京深川倉前渡し、中間2等（現物）。輸入ものは横浜渡し、一次問屋基準（現物）

2 実施した事業

当協会の事業目的に即して、良品質な国産豆の安定供給に資する豆類に関する学術の振興（公1）及び健康に良い豆についての消費啓発を通じた食育の推進（公2）を実施した。その際、業務の的確かつ効率的な運営に配慮しつつ、協会の助成事業や直轄事業により以下の各項目に記したとおり実施した。

また、豆類振興事業に関しては、広く一般から事業や課題を公募し、第三者で構成される審査委員会の選定結果に基づいて、平成27年度末までに、平成28年度豆類振興事業助成対象候補を選定した。

良品質な国産豆の安定供給に資する豆類に関する学術の振興（公1）

[調査研究]

1 雑豆需要促進調査研究への助成（公募）

新たな雑豆の需要促進に資するため、大学、試験研究機関等の研究者が実施する、新需要開発、健康維持・増進などの各分野での調査研究として、次の8課題に助成した。

（1）各種豆類からの米麹菌発酵食品の新規開発に関する研究

共立女子大学 教授 上原誉志夫

（2）乾燥雑豆の加工処理条件と力学特性

青森県産業技術センター 主任研究員 相坂直美

（3）「小豆」「いんげんまめ」の高ポリアミン品種の探索とポリアミンを強化した「小豆麹」「いんげんまめ麹」の開発

栃木県産業技術センター 技師 松本健一

- (4) あずき給与と運動の併用による抗肥満効果の検証
神戸大学 准教授 本田和久
- (5) レジスタントスターチを含む豆類の製パン性に関する研究
石川県立大学 准教授 本田裕司
- (6) 小豆に含まれる発癌抑制性ジテルペノイドに関する研究
長崎県立大学 教授 四童子好廣
- (7) 雑豆微粉末およびその含有成分がパンの物性・食味性に及ぼす影響—高機能性パンの開発を目指して
神戸女子大学 准教授 木村万里子
- (8) 古代えんどう豆の調理による着色機構の解明と機能性の解析
徳島文理大学 准教授 近藤美樹

2 豆類事情調査

- (1) 国内関係の調査では、海外展開に向けた基礎情報を収集・整理することにより、今後の豆類需要拡大の検討に資するため、日本在住の外国人や訪日外国人観光客の日本国内における菓子類・和菓子の消費実態、餡製品に対する購買動向や嗜好性等についての調査、海外在住外国人の菓子類の消費動向、現地流通業者からみた豆類製品（餡製品等）ニーズ等の調査を、平成 28 年度から 29 年度までの 2 年間で実施している。また、難消化性でんぷんである餡粒子に着目して、餡製品の消化への影響について科学的データを収集・整理するため、食物繊維および難消化性でんぷんの分析、ラットを用いた消化試験による体重への影響や機能性の検討を、平成 28 年度から 29 年度までの 2 年間で実施している。
- (2) 海外関係の調査では、海外豆類事情調査団派遣事業（ベトナム）を実施するとともに、豆類主要輸出輸入国現地調査事業（ブラジル）を平成 28 年度から 29 年度までの 2 年間で実施している。
(海外豆類事情調査)
団員 5 名を、平成 29 年 2 月 12 日～19 日の 8 日間ベトナムへ派遣

[試験研究]（公募）

1 品種改良試験

豆類の品種改良を促進するため、次の試験研究 5 課題に助成し、国立大学法人帯広畜産大学、地方独立行政法人北海道立総合研究機構十勝農業試験場、同中央農業試験場で実施された。

- (1) 小豆の機械収穫適性を向上させる長胚軸に関する DNA マーカーの開発
- (2) 加工適性に優れるサラダ等用途向け赤いんげんまめの開発強化および機械収穫適性の評価
- (3) アズキ茎疫病菌圃場抵抗性のマーカー開発と DNA マーカー選抜による小豆重要土壌病害抵抗性選

抜の効率化

- (4) 道央・道南地域に適した複合病害抵抗性、高品質、多収小豆品種の開発強化
- (5) 小豆におけるダイズシストセンチュウ抵抗性の選抜強化とDNAマーカーの開発

2 病害虫試験

被害が生じ拡散も懸念されている病虫害の防除対策のため、次の試験研究課題に助成し、地方独立行政法人北海道立総合研究機構上川農業試験場で実施された。

- (1) アズキ茎疫病菌のレース分布解明と検定法の改良

3 栽培法試験

豆類の栽培法の改善を図るため、次の試験研究課題に助成し、地方独立行政法人北海道立総合研究機構北見農業試験場、同十勝農業試験場、石川県農林総合研究センター農業試験場育種栽培研究部能登特産物栽培グループ、京都府農林水産技術センター農林センターで実施された。

- (1) 道東の早生小豆栽培地域における生産安定性の向上
- (2) 気象変動に対応した金時類の安定生産技術の開発
- (3) 能登大納言小豆の生産安定技術の開発
- (4) 丹波大納言の機械化体系栽培における大粒安定多収栽培技術の確立

4 機械化試験

豆類生産の機械化による省力化を推進するため、次の試験研究課題に助成し、地方独立行政法人北海道立総合研究機構北見農業試験場で実施された。

- (1) 花豆の高品質省力生産に向けた収穫・栽培方法の検討

5 開発試験

豆類の加工、調製過程における新技術を開発するため、次の試験研究4課題に助成し、地方独立行政法人北海道立総合研究機構中央農業試験場、公益財団法人とかち財団十勝産業振興センター、兵庫県立農林水産技術総合センター北部農業技術センターで実施された。

- (1) 近赤外分析法による菜豆品質項目の非破壊一括評価法開発
- (2) インゲンマメゾウムシ寄生子実選別用光学選別装置の開発
- (3) 兵庫県産大納言小豆の硬実性の改善と新加工技術の開発
- (4) インゲンマメの難消化成分「ルミナコイド」に着目した機能性成分の実態と変動要因の解明

[技術普及事業]

1 技術普及事業への助成（公募）

豆類栽培の優良農家、集団を表彰しその成果を広く紹介する豆類経営改善共励会の開催、作付指標面積に即して良品質豆類の計画的な安定生産を図るための豆類生産安定指導事業等の4事業に助成した。

2 技術普及事業の推進

北海道における豆類生産の安定化のため各種調査や指導を支援するとともに、豆類栽培管理技術の高位平準化と計画的な作付けによる生産の安定化を図るため、農業者及び農業関係者を対象に豆作り講習会を開催した。

（豆作り講習会の開催概要）

研修内容：豆類を巡る情勢、豆類の計画生産・需給状況、実需者からの道産豆類への要望、良質豆類の生産技術等に対する説明・講演

日程等：平成29年1月24日：伊達市、1月25日：剣淵町、1月26日：北見市、1月27日：芽室町にて開催、参加者は合計約640名

[豆類生産対策事業]

1 豆類種子対策事業への助成（公募）

高品質の豆類生産に大きな役割を果たす優良種子の安定生産と普及を図るため、豆類原原種、原種、種子の増殖事業等の3事業に助成するとともに、北海道における豆類新品種の開発普及事業に助成した。

健康に良い豆についての消費啓発を通じた食育の推進（公2）

[豆類消費啓発事業]

1 豆類消費啓発事業への助成（公募）

複数の豆類関係団体が連携して取り組む豆類に関する一般消費者の知識啓発及び理解増進を目的とした事業を公募し、豆類の生産・加工・流通関係14団体で構成する一般社団法人全国豆類振興会が実施する主婦等を対象とした豆料理コンテスト（応募総数1,114作品）、豆料理教室（全国61主要都市で開催、受講者1,196名）、今後の豆類消費啓発方策の検討等を行う事業に助成した。

2 豆類消費啓発事業への協力

（1）学校豆料理講習会

学校給食における豆料理提供機会の普及・定着を図るため、栄養教諭期成会が実施する学校栄養士

豆料理講習会（17道府県・19箇所、受講者数770名）及び児童、父母も参加する親子豆料理教室（14都県・30箇所、受講者数1,196名）に助成した。

（2）豆類振興への協力

一般消費者の豆類・豆製品類に関する知識啓発及び理解増進を図ることを目的として、全国穀物商協同組合連合会を始めとする豆類の流通・加工関係12団体が、それぞれの専門性を活かして実施する豆類・豆製品類に関する講習会、調査、資料配布等を行う事業に助成した。

3 豆類消費啓発事業の推進

（1）消費啓発資料の制作配布

食に関する指導者や一般消費者の豆類に関する知識啓発及び理解増進を図るため、豆の種類・特性、豆の健康栄養性、豆の基本的調理法、豆料理レシピ等に関する情報を掲載した各種資料については、「豆の日」関連イベントの開催や消費者等からの要請に応じて、積極的に配布するとともに、栄養・家政学系大学・短大、栄養・調理専門学校、栄養士会等の食育指導団体、消費生活センター等の消費者指導啓発機関、豆類関係団体等に配布案内を行い、希望に応じて配布した。また、過去2年間にわたって週刊文春に掲載した記事をまとめて小冊子「伝えたい 和の料理」を作成し、「豆の日」関連イベント等で配布した（消費啓発資料の配布総数は12万4千部）。英文パンフレット（日本の豆類）を、来年度以降の啓発用資料として作成した。

（2）豆を使った食育の推進

豆類に関する児童の理解促進を図るため、豆を使った食育指導用の学習読本を制作し、全国の小学校のうち4千校に配布案内を行い、利用希望のあった846校に配布した（7万9千部）。併せて、同資料の効果的利用に資するため、指導者向け解説書（3千5百部）及び乾燥豆標本セット（813セット）を制作・配布した。

（3）マスメディアを利用した豆類に関する情報の伝達

一般消費者に豆料理、豆の調理法、豆の栄養等に関する情報を伝達するため、総合週刊誌、生活情報誌、栄養・料理専門誌に広告・記事を出稿（合計12回）した。

また、放送メディアに対するパブリシティ活動を実施し、テレビ番組で豆料理等に関する話題が取り上げられた（2番組）。

（4）豆類消費啓発イベントの実施

一般消費者の豆類に関する消費啓発及び理解増進を目的として豆類関係団体が制定した「豆の日」（10月13日）及び平成28年が「国際マメ年」に制定されたことを踏まえ、10月11日、募集により選ばれた300名を対象に都内のホテルで「国際マメ年」・「豆の日」特別記念シンポジウム2016を開催した。

シンポジウムでは、まず、3名のパネリストによるパネルディスカッション（テーマ：美味しく食

べて健康に！)により、日本人がもっと食生活に小豆、いんげん豆等を取り入れるためにはどうすればよいのかを中心に議論いただいた。その後、ホテルの総料理長の監修、調理による和洋食中華の14種類の世界の豆料理の試食を行い、豆料理の多様性、美味しさ、可能性について参加者の皆様に再認識いただいた。また、試食会場では、豆類・豆製品、豆の優れた栄養、機能性についてのパネルの展示、豆類関係資料の配布も行い、参加者の皆様の「国際マメ年」、「豆の日」への理解を深めた。

[情報資料の提供等]

豆類に関する情報を発信するため季刊誌「豆類時報」を4回発行するとともに、協会ホームページの更新を図った。また、豆類に関する統計その他情報の収集・整備、資料発行、フェイスブックによる豆関係情報の発信等を行った。

国際マメ年のPRのため、イベント等で国際マメ年のロゴ付きのシールやしおり等を参加者等に配布するとともに、国際マメ年にちなんで、内外の主要な8つの豆をモデルとしたキャラクター「豆エイト」を制作し、イベント等でのシール配布や豆関係資料への掲載を行った。

第2 管理運営に関する事項

1 役員会等の開催

(1) 理事会

① 第1回理事会

日 時：平成28年5月25日（水）

場 所：三会堂ビル 2階 A会議室

出席者：理事8名、監事1名

次の議案を審議し、決議した。

第1号議案 平成27年度事業報告及び決算について

監事監査報告

第2号議案 役員候補者の選定について

第3号議案 平成28年度定時評議員会の開催について

(報告事項) 職務の執行状況について

② 第2回理事会 平成28年6月9日（木）決議の省略の方法による（書面決議）

理事 佐藤俊彰が理事の全員、監事の全員に対して、理事会の決議の目的である次の事項について提案書を発し、当該提案について理事9名全員から書面により同意の意思表示を、監事2名全員から書面により異議がないとの意思表示を得たので、決議の省略の方法により、承認可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

(提案事項)

(1) 理事長（代表理事）選定の件

理事長（代表理事）として佐藤俊彰が選定された。

(2) 業務執行理事選定の件

副理事長（業務執行理事）として小高良彦が選定された。

常務理事（業務執行理事）として斎藤聰が選定された。

③ 第3回理事会

日 時：平成28年10月27日（木）

場 所：三会堂ビル 2階 A会議室

出席者：理事8名、監事1名

次の事項の報告がなされた。

- 報告事項 (1) 平成 28 年度上期事業進捗状況及び収支状況について
(2) 職務の執行状況について

④ 第 4 回理事会

日 時：平成 29 年 3 月 23 日（木）
場 所：三会堂ビル 2 階 A 会議室
出席者：理事 9 名、監事 1 名

次の議案を審議し、決議した。

- 第 1 号議案 平成 29 年度事業計画及び収支予算等について
(報告事項) 職務の執行状況について

(2) 評議員会

平成 28 年度定時評議員会

日 時：平成 28 年 6 月 9 日（木）14:00～15:00
場 所：三会堂ビル 2 階 A 会議室
出席者：評議員 7 名、監事 1 名、理事 3 名

次の議案を審議し、決議した。

- 第 1 号議案 平成 27 年度事業報告及び決算について
監事監査報告
第 2 号議案 理事の選任について

(3) 監事監査

日 時：平成 28 年 5 月 11 日（水）
場 所：三会堂ビル 4 階（公財）日本豆類協会会議室
出席者：監事 2 名

平成 27 年度の業務の執行及び財務の処理状況について、監事による監査が行われ、いずれも正確かつ適正である旨の監査報告書が提出された。

2 人事異動

理事（任期満了による改選）

再任 7 名（平成 28 年 6 月 9 日付選任）

小高良彦、斎藤 聰、佐藤俊彰、田中滋郎、飛田稔章、山名律子、吉田岳志

新任 2 名（平成 28 年 6 月 9 日付選任）

荒川博史、國分牧衛

退任 2 名（平成 28 年 6 月 9 日付退任）

石原 邦、川西文男

事業報告の附属明細書について

平成 28 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。